

2014 年度 所員業績リスト

■浅野倫子

< 論文 > (査読あり)

Asano, M., Imai M., Kita, S., Kitajo, K., Okada, H., & Thierry, G. (2015). Sound symbolism scaffolds language development in preverbal infants. *Cortex*, **63**, 196-205.

Nagai, J., Yokosawa, K., & Asano, M. (in press). Biases and regularities of grapheme-color associations in Japanese non-synesthetic population. *Quarterly Journal of Experimental Psychology*.

< 書籍 >

浅野倫子・渡邊淳司 (2014). 知覚と言語 安西祐一郎・今井むつみ・入来篤史・梅田聡・片山容一・亀田達也・開一夫・山岸俊男(編) 岩波講座 コミュニケーションの認知科学 第1巻「言語と身体性」 岩波書店 pp. 63-91.

< 寄稿論文 >

浅野倫子・横澤一彦 (2014). 色字共感覚：文字認知と色認知の隠れた結びつき ヒューマンインタフェース学会誌, **16(4)**, 265-268. (色インタフェース特集記事) (2014年11月刊行)

浅野倫子 (2015). ことばの音のイメージを足掛かりに言語記号の使い手になる 発達, **141**, 96-99. (玉川赤ちゃんラボ連載「ことばとコミュニケーションを科学する」第8回) (2015年1月刊行, ミネルヴァ書房)

< 学会等での発表 >

Imai, M., Asano, M., Thierry, G., Kitajo, K., Okada, H., & Kita, S. Sound symbolism and arbitrary sound-meaning relationships in language. Oral presentation at Evolang 10, Vienna, Austria (2014年4月) (査読あり)

浅野倫子. 知覚と言語をまたいでみる. 第22回東京大学文学部心理学研究室セミナー, 東京 (2014年7月) (依頼講演)

Asano, M., Thierry, G., Kita, S., Kitajo, K., Okada, H., & Imai, M. Developmental Change in the Processing of Sound Symbolism. XIX Biennial International Conference on Infant Studies (ICIS 2014), 6-67, Berlin, Germany (2014年7月) (査読あり)

Palmer, S. E., Schloss, K. B., Yokosawa, K., Asano, M., Kanazawa, N., Guo, T., Wung, V., Chai, F., & Peng, K. Ecological Influences on Color Preferences in Japan, China, and the US. Paper presented at "Symposium 2: From East to West: Art & Science across Time & Space" at 2nd Visual Science of Art Conference (VSAC), Belgrade, Serbia (2014年8月) (依頼講演).

浅野倫子. 迅速な文章文脈の処理メカニズムの検討：事象関連電位を用いて. 日本心理学会第78回大会 (日本心理学会第78回大会発表論文集), 2EV-1-077, (2014年9月11日, 同志社大学) (査読なし)

大石みどり・佐治伸郎・浅野倫子・今井むつみ. 子どもの色語の獲得過程. 日本認知科学会第 31 回大会, P2-27, (2014 年 9 月, 名古屋大学) (査読あり)

浅野倫子. 知覚と言語をつなぐ音象徴: 言語発達の観点から. 日本認知科学会第 31 回大会, ワークショップ 8 「オノマトペと音象徴 2」, (2014 年 9 月 20 日, 名古屋大学) (話題提供)

Nagai, J., Yokosawa, K., & Asano, M. Non-random associations between graphemes and colors: How do Japanese non-synesthetes associate Kana characters with colors? 55th Annual Meeting of the Psychonomic Society, 1024, Long Beach, USA (2014 年 11 月) (査読あり)

Yokosawa, K., Asano, M., Kanazawa, N., Schloss, K. B., & Palmer, S. E. The effect of symbolic/conceptual associations on single color preferences. 55th Annual Meeting of the Psychonomic Society, 3015, Long Beach, USA (2014 年 11 月) (査読あり)

浅野倫子・横澤一彦. 色字共感覚の文字習得過程仮説. 日本基礎心理学会第 33 回大会サテライトオーラルセッション, (2014 年 12 月 5 日, 首都大学) (査読あり)

[★The Young Psychonomic Scientist of the Year 2014 受賞]

浅野倫子・金沢菜々実・Schloss, K. B.・Palmer, S. E.・横澤一彦. 日本人の色の好みは何で決まるか?: 色から連想される物体と抽象的イメージの影響. 日本基礎心理学会第 33 回大会, 1A42, (2014 年 12 月, 首都大学) (査読なし)

Saji, N., Oishi, M., Asano, M., & Imai, M. The developmental process of organizing a semantic domain: the case of Japanese color word learning. Society for Research in Child Development (SRCD) 2015 Biennial Meeting, 1-054-138, Philadelphia, USA (2015 年 3 月) (査読あり)

Asano, M., Kitajo, K., Thierry, G., Kita, S., Okada, H., & Imai, M. Eleven-month-old infants process sound symbolism based on both perceptual integration and semantic processing mechanisms. Society for Research in Child Development (SRCD) 2015 Biennial Meeting, 1-003-145, Philadelphia, USA (2015 年 3 月) (査読あり)

Imai, M., Asano, M., Thierry, G., Kita, S., Kitajo, K., & Okada, H. Developmental change in the neural response of sound symbolism. Paper presented at Paper Symposium #1-112 “Sound symbolism: new insights into its role in language development” at Society for Research in Child Development (SRCD) 2015 Biennial Meeting, Philadelphia, USA (2015 年 3 月) (査読あり)

■江川隆男

<著作>

江川隆男. 『アンチ・モラリア——〈器官なき身体〉の哲学』(単著)、河出書房新社、2014 年 6 月、全 364 頁。

<書評>

山森裕毅 『ドゥルーズの哲学——超越論的経験論の生成と構造』、『フランス哲学・思想研究』第 19 号、日仏哲学会、2014 年 9 月、pp. 218-221)

「ポスト構造主義におけるニヒリズムの徹底——ドゥルーズの多孔質的判断力論を開く」(千葉雅也

『動きすぎではいけない——ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』(『表象 09 号』、月曜社、2015 年 3 月、pp. 282-285)

<合評会>

江川隆男『アンチ・モラリア——〈器官なき身体〉の哲学』合評会、特定質問者・千葉雅也 [立命館大学]、科研費「ドゥルーズ研究の国際化拠点の形成」(代表・檜垣立哉 [大阪大学])、(2014 年 11 月 30 日、グランフロン大阪)

■芳賀 繁

<研究論文> (査読あり)

大嶋玲未・廣川佳子・芳賀繁，大学生の社会人基礎力が職業キャリア・レディネスに及ぼす効果とその規定要因としての主要 5 因子性格の影響，キャリアデザイン研究，Vol. 10，pp.33-44，2014 (2014 年 9 月) (原著)

増田康祐・芳賀繁，携帯電話への文字入力が注意，歩行，メンタルワークロードに及ぼす影響：室内実験によるスマートフォンとフィーチャーフォンの比較，人間工学，Vol.51，No.1，pp.52-61，2015. (2015 年 2 月) (原著)

佐藤秀香・芳賀繁，街路歩行時の携帯電話操作とイヤホン使用に影響を及ぼす要因の研究，立教大学心理学研究，第 57 号，pp.37-50，2015. (2015 年 3 月)

廣川佳子・芳賀繁，国内における経営理念研究の動向，立教大学心理学研究，第 57 号，pp.73-86，2015. (2015 年 3 月) (展望)

<学会発表>

大谷華・芳賀繁，公正な組織では作業者の安全行動意思が高まるか：職業的自尊心-安全行動意思モデルの拡張，日本心理学会第 78 回大会発表論文集。2014. (2014 年 9 月 10-12 日，京都) (査読無)

稲葉緑・小野寺理・武田祐一・楠神健・芳賀繁，作業の慣れによるルール違反出現過程に関する実験的研究，日本心理学会第 78 回大会発表論文集。2014. (2014 年 9 月 10-12 日，京都) (査読無)

増田康祐・佐藤秀香・関根由莉・芳賀繁，歩行中の携帯電話使用が注意と歩行に及ぼす影響 (1) ボタン式とタッチパネル式入力の比較，人間工学，Vol.50，特別号 (日本人間工学会第 55 回大会講演集)，pp.370-371. (2014 年 6 月 5-6 日，神戸) (査読無)

増田康祐・関根由莉・佐藤秀香・芳賀繁，歩行中の携帯電話使用が注意と歩行に及ぼす影響 (2) 歩行の安定性とメンタルワークロードの計測，人間工学，Vol.50，特別号 (日本人間工学会第 55 回大会講演集)，pp.372-373. (2014 年 6 月 5-6 日，神戸) (査読無)

稲葉緑・小野寺理・武田祐一・楠神健・芳賀繁，思い込みエラー体験型学習プログラムの開発 — 鉄道社員を対象としたヒューマンエラー教育プログラム —，人間工学，Vol.50，特別号 (日本人間工学会第 55 回大会講演集)，pp.200-201. (2014 年 6 月 5-6 日，神戸) (査読無)

MASUDA, K., SEKINE, Y., SATO, H., and HAGA, S.，Laboratory Experiment on Visual and Auditory Inattention of Pedestrians Using Cell Phones, the 28th International Congress of Applied Psychology: ICAP2014, Paris, 2014. (2014 年 7 月 8-13 日，パリ) (査読有，口頭発表)

Oya H., SATO, H., SEKINE, Y., and HAGA, S., The role of occupational pride in safety actions: Constructing a model of safety actions with the Theory of Planned Behavior, the 28th International Congress of Applied Psychology: ICAP2014, Paris, 2014. (2014年7月8-13日, パリ) (査読有, EPOSTER presentation)

INABA, M, NAKAMURA, R., IMAIZUMI, T., ONODERA, O., TAKEDA, Y., KUSUKAMI, K., and HAGA, S., Development of interactive educational games about human error for railway personnel, Proceedings of the 5th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics: AHFE2014, Krakow, Poland, 2014. (2014年7月19-23日, ポーランド・クラクフ) (査読有, Oral presentation)

< 著書 >

芳賀繁, あなたはなぜ同じ失敗をするのか?, カドカワ・ミニッツブック, (2014年9月) (単著書)

< 雑誌等への寄稿 >

芳賀繁, ミスと上手に付き合う: 失敗も成功も両方見て, 適切な解を見つける, ヒューマンスキル教育研究, 第23号, pp.18-22, 2015. (2015年4月) (査読無)

Haga, S., Safety management and resilient work performance at the "sharp end", JR EAST Technical Review, No.30, Autumn 2014. (2014年8月) (査読無)

■ 林もも子

< 著書 > (分担執筆)

『人間関係の生涯発達心理学』(単行本) 丸善出版、2014年9月27日

大藪 泰 (編集), 林もも子 (編集), 小塩 真司 (編集), 福川 康之 (編集)

< 論文 >

Ikeda, M., Hayashi, M., Kamibeppu, K. The relationship between attachment style and postpartum depression. Attachment and Human Development. 2014; Aug 6:1-16

< 学会発表 >

Momoko Hayashi(Rikkyo University, Japan)、Mami Kitashiro, Kiriko Anai, Miyuki Ino, Kuninao Minakawa (Hosei University, Japan) The relationship of a mothers' insecure fearful attachment style and the maltreatment (physical abuse) of her children. 14thCongress ; World Association of Infant Mental Health (2014)

■ 日高聡太

< 論文 > (査読有)

Hidaka, S., and Shimoda, K. (2014). Investigation of the effects of color on judgments of sweetness using a taste adaptation method. *Multisensory Research*, 27(3-4), 189-205.

<論文> (紀要)

日高聡太・池田華子・石山智弘 (2015). 3次元映像と2次元映像観察時に生じる疲労感の違い—主観的・客観的指標を用いた検討—. *立教大学心理学研究*, 57, 1-10.

<学会発表> (国際学会)

Teramoto, W., Takebe, S., and Hidaka, S. Influence of surface features of visual stimuli on sound-contingent visual motion aftereffects. 37th of European Conference of Visual Perception (August, 25, 2014, Belgrade, Serbia).

Ide, M., and Hidaka, S. Touch-induced visual masking effect. 15th International Multisensory Forum (June, 11, 2014, Amsterdam, The Netherlands)

Omi, T., Ide, M., and Hidaka, S. Effects of visual presentation of hand image on visuotactile temporal adaptation. 15th International Multisensory Forum (June, 13, 2014, Amsterdam, The Netherlands)

<学会発表> (国内学会)

井手正和, 日高聡太. 触覚誘導性視覚マスキング. 日本基礎心理学会第33回大会サテライトワークショップ (2014年12月5日, 首都大学東京) 【口頭発表】

池田華子, 田中智明, 日高聡太, 石山智弘, 宮崎弦太. 映像の解像度および撮像対象の違いが動画像観視時の主観的印象に及ぼす影響. HIP2014 (2014年12月1-2日, 東北大学) 【口頭発表】

寺本渉, 武部祥太, 日高聡太. 視覚刺激の表面特徴が聴覚随伴性視覚運動知覚に与える影響. 第6回多感覚研究会 (2014年11月12-13日, 広島大学)

日高聡太. 手への触覚入力によって生じる視覚的な見えの抑制. 早稲田大学心理学コース主催第3回研究発表会 (2014年7月18日, 早稲田大学) 【招待講演】

日高聡太, 下田和優. 色が味覚判断に及ぼす影響—味覚順応法を用いた検討—. 日本認知心理学会第12回大会 (2014年6月29日, 仙台国際センター)

井手正和, 日高聡太. 触覚刺激による視覚刺激の見えの抑制. 日本認知心理学会第12回大会 (2014年6月29日, 仙台国際センター) 【口頭発表】

柴田芽衣子, 日高聡太. 形の知覚における色と傾きの特徴が持つ注意負荷の違い—二重高速逐次視覚提示課題を用いた検討—. 日本認知心理学会第12回大会 (2014年6月29日, 仙台国際センター)

■池田華子

<研究技報> (査読無し)

池田華子・田中智明・日高聡太・石山智弘・宮崎弦太 (2014). 映像の解像度および撮像対象の違いが動画像観視時の主観的印象に及ぼす影響. 電子情報通信学会技術研究報告. HIP, ヒューマン情報処理, 114(347), 1-6.

<学会発表>

池田華子・渡邊克巳. バイオロジカルモーションからの感情判断課題におけるクラウディング 基礎心理学会第33回大会. (2014年12月7日, 首都大学東京).

池田華子・田中智明・日高聡太・石山智弘・宮崎弦太. 映像の解像度および撮像対象の違いが動画像観視時の主観的印象に及ぼす影響. 電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会 (2014年12月1日, 東北大学).

Ikeda, H., & Watanabe, K. **Modulation of crowding of biological motion by action congruency.** *The 37th European Conference on Visual Perception (ECVP)*, (2014/8/26, Belgrade, Serbia).

池田華子・渡邊克巳. バイオロジカルモーションの動作一致によるクラウディングへの影響. 日本認知心理学会第12回大会. (2014年6月29日, 仙台国際センター).

■加藤千恵

<研究会発表>

『入薬鏡』と煉丹術の原理

京都大学人文科学研究所共同研究班「東アジア伝統医療文化の多角的研究」第二回研究会
(2014年7月6日, 京都大学人文科学研究所)

■香山リカ

<著書>

香山リカ (2014). 随ちられない「私」 精神科医のノートから, 文藝春秋, 全222頁

香山リカ (2014). 怒り始めた娘たち: 「母娘ストレス」の処方箋, 文藝春秋, 全202頁

香山リカ (2014). リベラルじゃダメですか?, 祥伝社, 全202頁

香山リカ (2014). 劣化する日本人, ベストセラーズ, 全192頁

香山リカ (2014). 弱者はもう救われないのか, 幻冬舎, 全111頁

香山リカ (2014). ソーシャルメディアの何が気持ち悪いのか, 朝日新聞出版, 全212頁

香山リカ (2014). 比べずにはいられない症候群, すばる舎, 全108頁

香山リカ (2014). 悲しいときは、思いつきり泣けばいい, 七つ森書館, 全176頁

<著書以外の著作>

永井 均, 香山リカ & 9名 (2014). サンガジャパンVol. 17, サンガ, 全323頁

<学術論文>

香山リカ (2014). 思春期の美に関する意識 - “ありのまま”ではいられない-, 思春期学32(3):291-293

<学会発表>

香山リカ. 若者のホンネ, 日本精神衛生学会第30回北海道大会, (2014年11月2日, 道民活動センタービルかでの2・7)

香山リカ. ラカン理論で読み解く2014年東京都知事選, 京都国際ラカン精神分析コロキウム

(2014年4月11日, 国立京都国際会館)

■松永美希

<研究論文> (査読あり)

松永美希・中村菜々子・原田ゆきの・石井眞治 (2014). 新任教師のリアリティ・ショック
産業ストレス研究, **21**, 237-242.

Yoshimura, S., Okamoto, Y., Onoda, K., Matsunaga, M., Okada, G., Kunisato, Y., Yoshino, A., Ueda, K.,
Suzuki, S., & Yamawaki, S. (2014). Cognitive behavioral therapy for depression changes medial prefrontal
and ventral anterior cingulate cortex activity associated with self-referential processing *Social cognitive
and affective neuroscience*, **9**, 487-493

<研究論文> (査読無し)

中村菜々子・松永美希・原田ゆきの・三浦正江 (2014). 新任教師のリアリティ・ショックの影響を
緩和する社会的要因の探索的検討：ソーシャルサポートと援助要請に関する質的・量的検討 発
達心理臨床研究, **20**, 1-9.

<学会発表>

Matsunaga, M., Higuchi, M., Nakamura-Taira, N., & Sato, M. (2014). The relationship between
the embarrassment and the stages of change regarding gynecological examination in female
Japanese college students. *28th International Congress of Applied Psychology*. (2014年7月
10日; Paris, France)

松永美希・中村菜々子・水澤慶緒里・井川純一・松本友一郎 (2014). 対人援助職のメンタルヘルス
日本心理学会第78回大会 (2014年9月12日; 同志社大学)

岩山孝幸・松永美希 (2014). 精神科外来患者における抑うつ症状と前頭前野活動の関連(2) - 近
赤外分光法 (NIRS) を用いた予備的研究 - 日本心理学会第78回大会 (2014年9月11日; 同
志社大学)

石川信一・武藤崇・井澤信三・松永美希・佐藤寛・尾形明子・山本淳一 (2014). 実証に基づく心理
トリートメントの開発と普及：日本におけるエビデンスの今 日本心理学会第71回大会 (2014
年9月10日; 同志社大学)

坂井誠・松永美希・飯倉康郎・市井雅哉・井上雅彦・丹野義彦 (2014). 認知行動療法を認知行動療
法にしているもの 日本認知・行動療法学会第40回大会 (2014年11月2日; 富山国際会議場)

岩山孝幸・堀川直史・松永美希・五十嵐友里 (2014). 過去の度重なる措置入院体験により日常の小
さな“パニック”への対処が問題となっている40代男性パニック障害患者との面接過程 日本認
知・行動療法学会第40回大会 (2014年11月3日; 富山国際会議場)

松永美希・尾崎健一・田上明日香・奥山真司・島津明人・中尾睦宏 (2014). 復職支援に活かす行
動医学と認知行動療法 第21回日本行動医学会学術総会 (2014年11月22日; 早稲田大学)

■宮崎弦太

<論文> (査読あり)

宮崎弦太・池上知子 (2015) 被拒絶場面における関係修復行動の促進要因としてのコミットメントと受容期待：媒介過程の差異と愛着傾向による調整過程 社会心理学研究, 30, 164-174.

Mukai, S., & Miyazaki, G. (in press). Factorial invariance in evaluation of impressions between fonts and package designs using structural equation modeling. *Bulletin of Japanese Society for the Science of Design*

<報告書>

池田華子・田中智明・日高聡太・石山智弘・宮崎弦太 (2014). 映像の解像度および撮像対象の違いが動画像観視時の主観的印象に及ぼす影響 電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究会, 技術研究報告書, 114(347), p1-6.

<学会発表>

宮崎弦太・矢田尚也・池上知子・佐伯大輔 (2014) 関係流動性と上方比較経験が親密関係での交換不安に及ぼす影響-特性自尊心による差異の検討- 日本社会心理学会第54回大会 (2014年7月26日, 北海道大学)

宮崎弦太 (2014) 関係規範の規定因としての関係相手の応答性 日本心理学会第78回大会 (2014年9月10日, 同志社大学)

佐伯大輔・宮崎弦太・矢田尚也・池上知子 (2014) 都市生活環境尺度開発-都市-村落間の比較研究より- 日本心理学会第78回大会 (2014年9月11日, 同志社大学)

Miyazaki, G. (2015) Perceived partner unresponsiveness promotes relationship commitment among anxiously attached individuals: The mediating role of communal norms. Poster presented at the 16th Annual Meeting of Society for Personality and Social Psychology (2015年2月27日, Long Beach, USA)

■中村秀之

<図書・単著>

中村秀之 (2014) 『敗者の身ぶり——ポスト占領期の日本映画』岩波書店、全336頁、2014年10月

<図書・章分担執筆>

中村秀之 (2014) 「見えるものから見えないものへ——『社会科教材映画大系』と『はえのいない町』(一九五〇年)の映像論」、丹羽美之・吉見俊哉編『戦後復興から高度成長へ——民主教育・東京オリンピック・原子力発電』(記録映画アーカイブ2)、東京大学出版会、全282頁、担当箇所61-98頁、2014年7月

<論文>

中村秀之 (2015) 「映画の全体と無限——ドゥルーズ『シネマ』とリュミエール映画」、『立教映像身

体学研究』3号、52-71頁、2015年3月（査読なし「教員研究論文」）

< 評論 >

中村秀之 (2015) 「高倉健と特攻隊映画——東映任侠映画の時期における」、『ユリイカ』47巻2号、125-132頁、2015年2月

< 学会発表 >

中村秀之 (2014) 「リュミエールなきシネマ —— ドゥルーズ『シネマ』におけるショット概念の批判的考察」、日本映像学会第40回大会研究発表（2014年6月8日、沖縄県立芸術大学）（日本映像学会会報168号11頁に報告掲載）

< その他の口頭発表 >

中村秀之 (2015) 「1950年代日本の映画批評と映画界——変化、連続、亀裂」、国際日本文化研究センター国際日本文化研究センター共同研究「昭和戦後期における日本映画史の再構築」（代表・谷川建司）（2015年2月1日、国際日本文化研究センター）

中村秀之 (2015) 「ヒッチコック的3D——『裏窓』における恐怖と悦楽の彼岸」、公開講演会「ヒッチコック映画の空間と精神——ロメール&シャブロー『ヒッチコック』をうけて」（文部科学省私立大学戦略的研究基盤支援事業「新しい映像環境をめぐる映像生態学研究の基盤形成」チーム3新しい映像環境における映画芸術の変容に関する研究）（2015年1月10日、立教大学新座キャンパス）

中村秀之 (2014) 「ドゥルーズは『シネマ』で何をやったのか？ —— 映画的思考の思惟学（ノオロジー）について」日本映像学会東部支部・映像理論研究会、2014年度第1回（通算第19回）研究発表会（2014年5月17日、成城大学）

中村秀之 (2014) 「歴史の関を越える —— 『虎の尾を踏む男達』（1945/1952）の神話・事実・寓意」、日本映像学会東部支部・映像テキスト分析研究会、2014年度第1回（通算10回）研究発表会（2014年4月12日、立教大学池袋キャンパス）

■小口孝司

< 論文 >（査読付き）

川久保惇・小口孝司 (2015). メンタルヘルス・ツーリズムとしての短期旅行が従業員の精神的健康に及ぼす影響 日本国際観光学会論文集, 22, 189 – 195.

川久保惇・吉岡明里・小口孝司 (2015). 自然環境の映像と音がストレス低減に及ぼす影響 立教心理学研究, 57, 11-20.

中島実穂・森正樹・小口孝司・丹野義彦 (2014). 反芻・省察を変動させる対人ストレスイベントの種類 パーソナリティ研究, 23, 101 – 104.

< 書籍 >

竹田葉留美・小口孝司 (2014). ストレッサーとストレス反応、ストレスと性格特性、日本を楽しむ

む 土肥伊都子（編） 自ら挑戦する社会心理学 保育出版社

<学会発表>

Kawakubo, A., & Oguchi, T. (2015). Psychological evaluation of the depression and sleep to improve the quality of life, The 6th World Congress on Sleep Medicine (March, Seoul, Korea: Poster presentation)

Kawakubo, A., & Oguchi, T. (2015). Effects of rumination, reflection and self - disclosure on depression among adults. The 16th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology (February, Long Beach, California, USA: Poster presentation)

Kawakubo, A., Abe, K., Sekiguchi, Y., & Oguchi, T. (2014). The effect of the edutainment theme park 'KidZania' on career consciousness. *20th Asia Pacific Tourism Association Annual Conference Proceedings*. (10 pages) (July, Ho Chi Minh City, Vietnam: Oral presentation)

川久保惇・小口孝司 (2014). 反応スタイルの性別・年代差および抑うつに及ぼす影響 日本グループ・ダイナミクス学会大会発表論文集, 61, 172-173. (9月, 東洋大学)

川久保惇・笠原亮多朗・小口孝司 (2014). 自然環境の映像と音がストレス低減に及ぼす影響 日本心理学会大会発表論文集, 78, 378. (9月, 同志社大学)

山口一美・小口孝司 (2014). 対人サービスから見たリゾートにおける癒し: 米国リゾートの調査から 日本観光研究学会 第29回大会発表論文集. (5月, 立教大学)

■大石幸二

<受賞>

第11回・日本特殊教育学会・実践研究賞

赤塚正一・大石幸二 (2013). 就学期の移行支援体制づくりに関する実践的研究—地域における特別支援学校のコーディネーターの役割と課題— 特殊教育学研究, 51(2), 135-145.

(⇒ 授賞式は, 2015年9月19~21日 東北大学での第53回大会にて行われる)

<研究論文> (査読あり) 掲載発行済 計3件 校正印刷中 計2件

大石幸二 (2013). 動きを表す描画に向けられる臨床心理士の視線—身体運動図式の読み取りと関連する視知覚の分析— 人間関係学研究, 19(1), 27-35. (2014年6月発行)

渡邊孝継・須藤邦彦・大石幸二 (2014). 知的障害を伴う自閉症児における他者の視線方向の弁別に関する研究—カード分類課題におけるプロンプト・フェイディング法の適用— 発達障害支援システム学研究, 13(2), 51-59. (2014年12月発行)

渡邊孝継・大石幸二 (2014). 知的障害を伴う自閉症児における参照的注視に関する研究—カード分類課題における条件性弁別の適用— 臨床発達心理実践研究, 9, 80-87. (2014年12月発行)

大石幸二 (2015). 自閉症児の表情認知の研究—顔図形と顔写真に対する反応の分析— 人間関係学研究, 19(2), 印刷中 (2015年3月発行予定)

大石幸二・赤塚正一 (2015). わが国における障害のある子どもの就学期の移行支援—継続的な相談・支援の基盤を整備するための課題— 人間関係学研究, 19(2), 印刷中 (2015年3月発行予定)

<研究論文> (査読なし) 掲載発行済 計3件

太田研・遠藤愛・大石幸二 (2015). 幼児の身体イメージ形成に及ぼす能動的触知覚活動の可能性. 星美学園短期大学研究論叢, **47**, 1-11. (2015年3月発行)

大石幸二 (2015). 行動コンサルテーション—実践と研究の現在位置—. コミュニティ心理学研究, **18(2)**, 175-185. (2015年3月発行)

<著書> 刊行済 計3件

大石幸二 (2014). 発達障害のある子どもへの支援. 日本社会福祉学会事典編集委員会編, 社会福祉学事典 (pp.432-433), 5月刊行 (分担執筆)

大石幸二監訳 (2014). 親子のできる引っ込み思案な子どもの支援. In Kearney, C. A.(2010) *Silence Is Not Golden: Strategies for Helping the Shy Child*. Oxford University Press: London. 学苑社, 7月刊行

日本行動分析学会・行動倫理研究会 (中野良顯・鎌倉やよい・森山哲美・吉野俊彦・大石幸二) 訳 (2015). 行動分析家の倫理—責任ある実践へのガイドライン—. In Bailey, J. & Burch, M.(2011) *Ethics for Behavior Analysts*. Routledge: New York. 二瓶社, 3月刊行

<学会発表> 論文集掲載済 計4件

大石幸二・赤木友彦・住谷仁太郎・和田麗々加・梶谷幼菜 (2014). 行動コンサルテーションにおける相談過程の分析—相談行動のコンサルタント間比較—. 日本特殊教育学会第52回大会 (2014年9月; 高知大学)

大橋智・野口和也・脇貴典・大石幸二 (2014). 保育巡回相談における言語行動の分析—事例におけるテキストマイニングを用いた内容の類型化と会話パターンの分析—. 日本特殊教育学会第52回大会 (2014年9月; 高知大学)

大橋智・野口和也・脇貴典・大石幸二 (2014). 行動コンサルテーションにおける言語行動の分析—テキストマイニングを用いた内容の類型化と会話パターンの分析手法の提案—. 日本心理学会第78回大会 (2014年9月; 同志社大学)

脇貴典・須藤邦彦・大石幸二 (2014). コンサルテーショントレーニングの効果についての検討—行動コンサルテーションスキルと臨床スキル獲得の視点から—. 日本特殊教育学会第52回大会 (2014年9月; 高知大学)

<寄稿論文> 掲載発行済 計1件

大石幸二 (2014). 巡回相談・在籍校訪問の際に役立つ! 通常学級担任への支援. みちびき, 第116号, 講演記録. (2014年6月, 東京都公立学校情緒障害教育研究会)

<DVD> 刊行済 計2件

大石幸二 (2015). はじめての行動コンサルテーション. 平成26年度科学研究費助成事業・学術研究助成基金助成金「基盤研究C」(メデイコラボ). 2015年1月刊行

大石幸二 (2015). どの子ども生き活きと学ぶことができるクラスづくりと学校支援 (発達障害実践シリーズ・ファイナル 第7巻). 公益社団法人神奈川学習障害教育研究協会. 2015年3月刊行

<取材・報道・記事> 計1件

大石幸二 (2014). 発達障害の子ども, 支援のポイントは. デイリー東北 (2014年7月24日版・第16面). デイリー東北新聞社.

■鈴木清重

<論文> (査読なし)

鈴木清重(2015). 「できごと」をつくるアート/時系列のデザイン Psychology 2014 : 桑沢デザイン研究所デザイン学分野心理学研究ゼミナール 2014年度研究成果報告書 pp. 20-29.

<書籍・文献>

大山 正 (著)・鷺見成正 (著・DVD制作)・五十嵐賢紘 (DVD制作)・鈴木清重 (映像制作・素材提供) (2014). 見てわかる視覚心理学 新曜社 148頁 初版発行:2014年4月20日

<国内学会> (口頭発表、査読なし)

鈴木清重. おべんとう絵本の事象知覚に関する事例研究 日本アニメーション学会第16回大会 (2014年6月22日, 東京工芸大学)

<国内学会 ポスター発表> (査読なし)

鈴木清重. 4K2D方式と4K3D方式で提示した実写動画像の鑑賞体験に関する実験的研究 日本心理学会第78回大会 (2014年9月, 同志社大学)

鈴木清重. おべんとう絵本の事象知覚に関する実験的研究 日本基礎心理学会第33回大会 (2014年12月, 首都大学東京)

<公開ワークショップ>

川崎紀弘 (司会・講師)・鈴木清重 (ゲスト・講師)・山本泰子 (記録)・小林美子 (記録) (2015). デザイナーのあたまの中展— デザインの試行錯誤を「ビジュアル化」する— イベント3「デザイナーのあたまの中」を体験する! 主催:株式会社コンセント, クリエイティブスペース amu. (2015年2月8日, 東京都渋谷区クリエイティブスペース amu)

<招聘講義>

鈴木清重(2014). 心理学研究からみるデザイン学の課題:モノ志向からコト志向へ (2014年11月1日, 専門学校 桑沢デザイン研究所)

■都築誉史

<研究論文> (査読あり)

- 千葉元気・都築誉史 (2014). 多属性意思決定における妥協効果と魅力効果の生起機序に関する包括的分析：生理学的指標と眼球運動測定に基づく実験的検討 認知科学, **21**, 451-467.
- 相馬正史・都築誉史 (2015). 考察方略が道徳ジレンマ状況における判断に及ぼす影響 立教大学心理学研究, **57**, 51-61.

< 図書 >

- 都築誉史 (2014). 認知のモデル研究 下山晴彦 (編集代表) 『誠信 心理学辞典 [新版]』 誠信書房 pp.134-137. (総ページ数 : 1088 ページ)

< 学会発表 >

- Tsuzuki, T., Chiba, I., & Soma, M. (2014). A time-series eye-fixation analysis of the similarity, attraction, and compromise effects in multi-attribute decision making. *Abstracts of the Psychonomic Society (The 55th Annual Meeting)*, **19**, 1187. (Long Beach, USA) (査読あり)
- Tsuzuki, T., Chiba, I., & Soma, M. (2014). The influence of time pressure on the phantom effect in multi-attribute decision making. *Abstract of the 35th Annual Conference of Society for Judgment and Decision Making*, No.1-166. (Long Beach, USA) (査読あり)
- Chiba, I., Tsuzuki, T., & Soma, M. (2014). Eye-tracking analysis of decision strategies involved in the context effects in perceptual decision making. *Abstract of the 35th Annual Conference of Society for Judgment and Decision Making*, No.1-29. (Long Beach, USA) (査読あり)
- Hashiguchi, S., Honma, M., Moriguchi, Y., Kuriyama, K., & Tsuzuki, T. (2014). The effect of emotional state on encoding of memory for recognition human faces with different facial expressions. *Abstracts of the Psychonomic Society (The 55th Annual Meeting)*, **19**, 5047. (Long Beach, USA) (査読あり)
- Soma, M., Tsuzuki, T., & Chiba, I. (2014). The effect of time pressure and ego depletion on moral judgment in the moral dilemma. *Abstract of the 35th Annual Conference of Society for Judgment and Decision Making*, No.2-107. (Long Beach, USA) (査読あり)
- 都築誉史・千葉元気・相馬正史 (2014). 眼球停留時間の時系列解析による多属性意思決定における魅力効果と認知容易性効果の検討 日本消費者行動研究会第 49 回消費者行動コンファレンス発表論文集, 54-57. (11 月, 明治学院大学)
- 都築誉史・千葉元気・相馬正史 (2014). タイムプレッシャーが多属性意思決定におけるファントム効果に及ぼす影響 日本認知科学会第 31 回大会発表論文集, P2-50. (5 ページ; 9 月, 名古屋大学)
- 都築誉史・千葉元気・菊地学・相馬正史 (2014). 眼球停留時間の時系列解析による多属性意思決定における文脈効果の検討 日本心理学会第 78 回大会発表論文集, 765. (9 月, 同志社大学)
- 千葉元気・都築誉史・相馬正史 (2014). 停留時間の分析による多属性意思決定における文脈効果の検討 日本心理学会第 78 回大会発表論文集, 761. (9 月, 同志社大学)
- 橋口秀一・本間元康・守口善也・栗山健一・都築誉史 (2014). 記銘時の情動状態が顔の再認に与える影響の実験的影響 日本心理学会第 78 回大会発表論文集, 716. (9 月, 同志社大学)
- 菊地学・都築誉史・千葉元気・相馬正史 (2014). 社会的距離が多属性意思決定における文脈効果に

与える影響 日本心理学会第 78 回大会発表論文集, 763. (9 月, 同志社大学)

相馬正史・都築蒼史・千葉元気 (2014). 多様な考察が道徳ジレンマ課題における判断に及ぼす影響
日本心理学会第 78 回大会発表論文集, 759. (9 月, 同志社大学)

■山本尚樹

<学会発表>

山本尚樹(2015 年). 『腹臥位における乳児の姿勢の多様性 - 這行の発達との関連から』日本発達心理学会第 26 回大会論文集, P5_2, (査読なし)

山崎寛恵、佐々木正人、山本尚樹、青山慶、麻生武、國吉康夫 (2015 年). 『システムの発達 Darwin ⇒Ghiseline、Gesell⇒Thelen、そして Gottlieb』日本発達心理学会第 26 回大会論文集, SS7_1, (査読なし)

<講演会>

山本尚樹『運動発達研究の理論的枠組みについて』日本発達心理学会「発達障害」分科会 2014 年度夏合宿, (2014 年 8 月).

山本尚樹『姿勢発達のダイナミクス』日本認知科学会「身体、システム、文化」研究分科会 博論 Datablitz, (2015 年 2 月).

■佐藤一彦, 石山智弘 (チーム 1 B)

<撮影>

佐藤一彦, 石山智弘:「4 K→8 Kへのコンバートアップを目的とした撮影実験・桜とチューリップ」

撮影日 : 2014 年 4 月 12 日 (土)

撮影場所: 埼玉県立大宮「花の丘」公園

撮影機材: カメラ: ソニー製 4 K カメラ F 5 5

レンズ: 独・ツアイス社製コンパクトズームレンズ (70-200 ミリ, T2.9)、
同 単焦点レンズ (20 ミリ、40 ミリ)

レコーダー: 4K 非圧縮レコーダー UDR

モニター: シャープ製業務用 4 K モニター 30 インチ

スタッフ: 撮影: 本田茂、撮影助手: 鈴木隆司 (映像身体学科 4 年)、佐藤一彦、

佐藤一彦, 石山智弘:「簡易型 4 K カメラを用いた撮影実験・東京隅田川周辺」

撮影日 : 2014 年 5 月 10 日 (土)

撮影場所: 隅田川流域 (晴海、永代橋、佃島など)

撮影機材: カメラ: ソニー製簡易型 4 K カメラ・Z 100

レンズ: レンズ交換式ではない

スタッフ: 撮影: 本田茂、佐藤一彦

佐藤一彦, 石山智弘:「4 K カメラを用いた隅田川花火大会の撮影実験」

撮影日 : 2014 年 7 月 20 日 (土)

撮影場所: 隅田川流域 (白髭端など)

撮影機材：カメラ：ソニー4Kカメラ・F5.5

レンズ：独・ツアイス社製コンパクトズームレンズ（70-200ミリ,T2.9）

同 単焦点レンズ（20ミリ、40ミリ）

スタッフ：撮影：本田茂、撮影助手：鈴木隆司（映像身体学科4年）佐藤一彦

佐藤一彦、石山智弘：「4Kカメラを用いた浮世絵の復刻版製作風景の撮影実験」

撮影日：2014年10月9日（木）10日（金）

撮影場所：浮世絵の制作工房がある茨城県常総市

撮影機材：カメラ：ソニー4Kカメラ・F5.5

レンズ：独・ツアイス社製コンパクトズームレンズ（70-200ミリ,T2.9）

同 単焦点レンズ（20ミリ、40ミリ）

スタッフ：撮影：本田茂、撮影助手：今村樹、北川隼（映像身体学科3年）、佐藤一彦

佐藤一彦、石山智弘：「4Kカメラを用いた「雨が激しく降る」風景の撮影実験」

撮影日：2014年11月1日（土）

撮影場所：東京都中央区新大橋そば

撮影機材：カメラ：ソニー4Kカメラ・F5.5

レンズ：独・ツアイス社製コンパクトズームレンズ（70-200ミリ,T2.9）

同 単焦点レンズ（20ミリ、40ミリ）

スタッフ：撮影：本田茂、撮影助手：高遠（映像身体学科3年）、佐藤一彦

<シンポジウム及びセミナーなどでの講演>

佐藤一彦・石山智弘「ケーブルテレビ局のための4K実技研修と経営フォーラム」

主催：日本ケーブルテレビ連盟、立教大学映像身体学科

日時：2014年9月11日、12日（立教大学新座キャンパス）

内容：講演と実技指導：「4Kでの撮影と編集の実施方法」（担当：石山智弘）

講演：「ケーブルテレビがめざすべき4Kビジネス戦略」（担当：佐藤一彦）

<4K放送番組>

佐藤一彦・石山智弘「4Kでよみがえる浮世絵 《歌川広重『名所江戸百景』》」（2015年）

製作：立教大学現代心理学部、心理芸術人文学研究所

企画・プロデュース・演出・構成 佐藤一彦

放送局：チャンネル4K（124/128度CSデジタル放送＝チャンネル番号：502）

放送主体：NexTV-F（一般社団法人・次世代放送推進フォーラム）